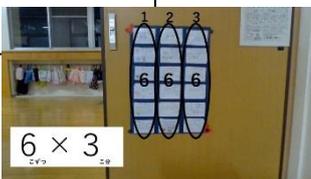
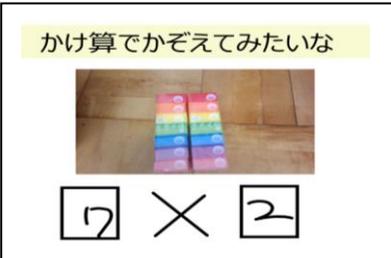


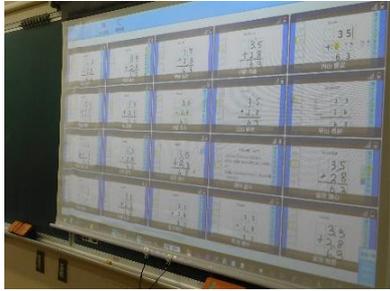
1人1台端末の活用による実践事例

教科名	算 数	学年	2年
単元名	かけ算		
ねらい	身の回りの事象や場面の中からか算の式に表せるものを見つけ、式に表すことを通して、かけ算の「1つ分×いくつつ」の見方・考え方を自ら使うことができる。		
活用した ICT 機器・タブレット	発表ノート 自作のアニメーション（パワーポイント）		

展開	主な学習活動	ICT 活用のポイント
<p>つかむ</p> <p>深める</p> <p>まとめる</p>	<p>1. 問題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> みのまわりから かけ算のしきになるものをさがして、カードに書きましょう。 </div>  <p>2. 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> かけ算のしきになるばめんを さがそう。 </div> <p>3. 個人追究をする。（↓実際の児童の発表ノート）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p style="background-color: yellow; font-size: small;">かけ算でかぞえてみたいな</p>  <p>7×5</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p style="background-color: yellow; font-size: small;">かけ算でかぞえてみたいな</p>  <p>7×2</p> </div> </div> <p>4. ペアで交流し、考えを広げる。</p> <p>5. 全体で交流をする。</p> <p>6. 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> みのまわりには、かけ算のしきになるばめんのものがたくさんある。1つ分の大きさ×いくつつ分の見方をするとすぐにさがすことができる。 </div> <p>7. 鉛筆問題に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大型スクリーンに図を提示し、問題を把握しやすくする。 ・発表ノートを1人に1人に配付し、かけ算の場面になる写真を取り、式を書く。 ・タブレットを示しながら自分の見つけたかけ算の場面をペアに説明する。 ・提出した発表ノートを前のスクリーンに投影し、共有する。 ・鉛筆問題ができた子から、WEBラーニングに取り組む。

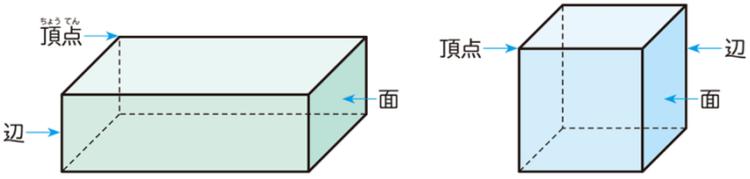
1人1台端末の活用による実践事例

教科名	算数	学年	3年
単元名	小数		
ねらい	小数の構成や順序、系列、大小について理解するとともに、加法及び減法の計算の仕方を整数の計算の仕方をもとに考え、正しく計算することができる。		
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等	スカイメニュー、デジタル教科書		

展開	主な学習活動	ICT 活用のポイント																																																																												
	<p>1 問題をつかむ。</p> <p>3.5 + 2.8 の計算のしかたを考えましょう。</p> <p>あおい <0.1 をもとにして考える> つばさ <位ごとに分けて考える></p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td>3.5</td><td>は、</td><td>0.1</td><td>の</td><td>35</td><td>こ分</td></tr> <tr><td>2.8</td><td>は、</td><td>0.1</td><td>の</td><td>28</td><td>こ分</td></tr> <tr><td colspan="6">合わせて、</td></tr> <tr><td>0.1</td><td>の</td><td>63</td><td>こ分</td><td colspan="2"></td></tr> <tr><td>0.1</td><td>の</td><td>63</td><td>こ分</td><td colspan="2">は、</td></tr> <tr><td colspan="4"></td><td>6.3</td><td></td></tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr><td>3.5</td><td>→</td><td>3</td><td>と</td><td>0.5</td></tr> <tr><td>2.8</td><td>→</td><td>2</td><td>と</td><td>0.8</td></tr> <tr><td colspan="5">合わせて</td></tr> <tr><td>5</td><td>と</td><td>1.3</td><td colspan="2"></td></tr> <tr><td colspan="5">だから、</td></tr> <tr><td colspan="5">6.3</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> あおいは、0.1 をもとにして考えて、整数と同じように計算している。 つばさは、位ごとに分けて考えている。 小数のたし算も、筆算が使える。 <p>2 課題をつかむ</p> <p>小数のたし算を筆算で計算できるようにしよう。</p> <table style="text-align: center;"> <tr> <td>$\begin{array}{r} 3.5 \\ + 2.8 \\ \hline \end{array}$</td> <td>→</td> <td>$\begin{array}{r} 3.5 \\ + 2.8 \\ \hline 6.3 \end{array}$</td> <td>→</td> <td>$\begin{array}{r} 3.5 \\ + 2.8 \\ \hline 6.3 \end{array}$</td> </tr> </table> <p>① 位をそろえて書く、 ② 整数のたし算と同じように計算する、 ③ 上の小数点にそろえて、答えの小数点をうつ。</p> <p>3 3.5 + 2.8 の筆算の書き方・手順を確認する。</p> <p>4 ◆問題① 1 2.6 + 5.4、② 6.9 + 4 の筆算に取り組む。</p> <table style="text-align: center;"> <tr> <td>$\begin{array}{r} 2.6 \\ + 5.4 \\ \hline 8.0 \end{array}$</td> <td></td> <td>$\begin{array}{r} 6.9 \\ + 4 \\ \hline 7.3 \end{array}$</td> <td>→</td> <td>$\begin{array}{r} 6.9 \\ + 4 \\ \hline 10.9 \end{array}$</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ① 18.0 ではなく、「.0」を消して、答えには18と書くのだな。 ② 4は4.0のことで、一の位の数だから6の下に書かないといけな。位をそろえて書くことは大切だな。 <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>小数のたし算の筆算は、位をそろえて書けば、整数と同じように計算できる。</p> <p>6 練習問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> P149 ② ①～⑥ <p>7 評価問題に取り組み、振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ②の類似問題と、振り返りをする。 <p>8 さらに練習問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> プリント プラスワン P243 ② (8問) web ラーニング・ミライシード 	3.5	は、	0.1	の	35	こ分	2.8	は、	0.1	の	28	こ分	合わせて、						0.1	の	63	こ分			0.1	の	63	こ分	は、						6.3		3.5	→	3	と	0.5	2.8	→	2	と	0.8	合わせて					5	と	1.3			だから、					6.3					$\begin{array}{r} 3.5 \\ + 2.8 \\ \hline \end{array}$	→	$\begin{array}{r} 3.5 \\ + 2.8 \\ \hline 6.3 \end{array}$	→	$\begin{array}{r} 3.5 \\ + 2.8 \\ \hline 6.3 \end{array}$	$\begin{array}{r} 2.6 \\ + 5.4 \\ \hline 8.0 \end{array}$		$\begin{array}{r} 6.9 \\ + 4 \\ \hline 7.3 \end{array}$	→	$\begin{array}{r} 6.9 \\ + 4 \\ \hline 10.9 \end{array}$	<p>ICT 活用のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> □のところが空欄になっている発表ノートを配付し、二通りの考え方の空欄にあてはまる数や語句を確認する。(個人→ペア→全体) 発表ノートにマス目を用意し、何度も練習できるようにする。 視覚的に分かりやすくなるよう全員の解答を一画面で子どもたちのタブレットに移すようにし、共有できるようにする。   <ul style="list-style-type: none"> 評価問題はノートに書かせ、合格をもらった子からタブレットの問題に取り組み、発表ノートを提出させ、個別に点検し、全員の定着を確認する。
3.5	は、	0.1	の	35	こ分																																																																									
2.8	は、	0.1	の	28	こ分																																																																									
合わせて、																																																																														
0.1	の	63	こ分																																																																											
0.1	の	63	こ分	は、																																																																										
				6.3																																																																										
3.5	→	3	と	0.5																																																																										
2.8	→	2	と	0.8																																																																										
合わせて																																																																														
5	と	1.3																																																																												
だから、																																																																														
6.3																																																																														
$\begin{array}{r} 3.5 \\ + 2.8 \\ \hline \end{array}$	→	$\begin{array}{r} 3.5 \\ + 2.8 \\ \hline 6.3 \end{array}$	→	$\begin{array}{r} 3.5 \\ + 2.8 \\ \hline 6.3 \end{array}$																																																																										
$\begin{array}{r} 2.6 \\ + 5.4 \\ \hline 8.0 \end{array}$		$\begin{array}{r} 6.9 \\ + 4 \\ \hline 7.3 \end{array}$	→	$\begin{array}{r} 6.9 \\ + 4 \\ \hline 10.9 \end{array}$																																																																										

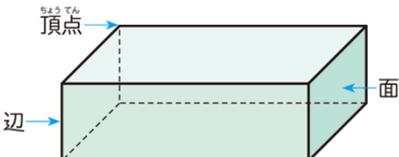
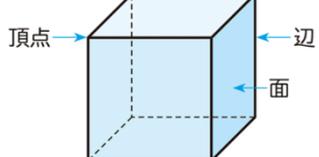
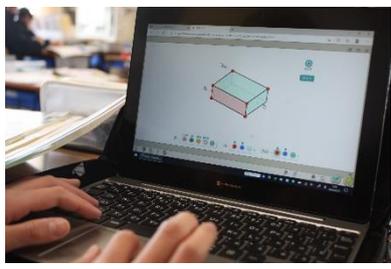
1人1台端末の活用による実践事例

教科名	算数	学年	4年生
単元名	直方体と立方体		
ねらい	直方体や立方体の頂点, 辺, 面の数を調べることを通して、それぞれの立体の特徴を理解し、立式したり、式を読み取ったりして共通点や相違点をみつけることができる。		
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等	SKYmenu デジタル教科書		

展開	主な学習活動	ICT 活用のポイント
つかむ	<p>1. それぞれの立体の共通点や相違点について、考える。</p>  <p>2. 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>頂点, 辺, 面の数にはそれぞれどのような特徴があるのだろうか。</p> </div> <p>3. 個人追求をする。</p>  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">Skymenu</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">ヒント：デジタル教科書にて図形を動かす。</div> </div> <p>4. ペアで交流し、考えを広げる。</p> <p>5. 全体で交流する。</p> <p>6. 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>直方体も立方体も頂点の数は8こ、辺の数は12こ、面の数は6こである。 ただし、直方体の面の形や辺の長さが違う。</p> </div> <p>7. 鉛筆問題に取り組む。</p>	<p>・大型スクリーンに図を提示し、頂点, 辺, 面に着目すればよいことを理解させる。</p> <p>・頂点, 辺, 面の数を skymenu に記入して、立方体と直方体それぞれで、気付いたことをメモする。</p> <p>・デジタル教科書の直方体や立方体の図形に、頂点の数をチェックして数えたり、辺に色づけをして、本数を数えたりする。</p> <p>・タブレットを示しながら自分の考えをペアに説明する。</p> <p>・鉛筆問題→振り返りができた子から、WEB ラーニングに取り組む。</p>

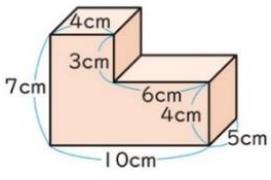
1人1台端末の活用による実践事例

教科名	算数	学年	4年生
単元名	直方体と立方体		
ねらい	直方体や立方体の頂点・辺・面の数を調べることを通して、それぞれの立体の特徴を理解し、立式したり、式を読み取ったりして共通点や相違点をみつけることができる。		
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等	SKYMENU（発表ノート）、デジタル教科書		

展開	主な学習活動	ICT 活用のポイント
つかむ	<p>1. それぞれの立体の共通点や相違点について、考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>2. 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 頂点・辺・面の数にはそれぞれどのような特徴があるのだろうか。 </div> <p>3. 個人追求をする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> SKYMENU（発表ノート） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> デジタル教科書にて図形を動かす。 </div> </div> <p>4. ペアで交流し、考えを広げる。</p> <p>5. 全体で交流する。</p> <p>6. 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 直方体も立方体も頂点の数は8こ、辺の数は12こ、面の数は6こである。 ただし、直方体は、面の形や辺の長さが違う。 </div> <p>7. 鉛筆問題に取り組む。</p>	<p>・大型スクリーンに図を提示し、頂点、辺、面に着目すればよいことを理解させる。</p> <p>・頂点・辺・面の数を発表ノートに記入して、立方体と直方体それぞれで、気付いたことをメモする。</p> <p>・デジタル教科書の直方体や立方体の図形に、頂点の数をチェックして数えたり、辺に色づけをして、本数を数えたりする。</p> <p>・タブレットを示しながら自分の考えをペアの児童に説明する。</p> <p>・鉛筆問題、振り返りができた児童から、WEB ラーニングに取り組む。</p>

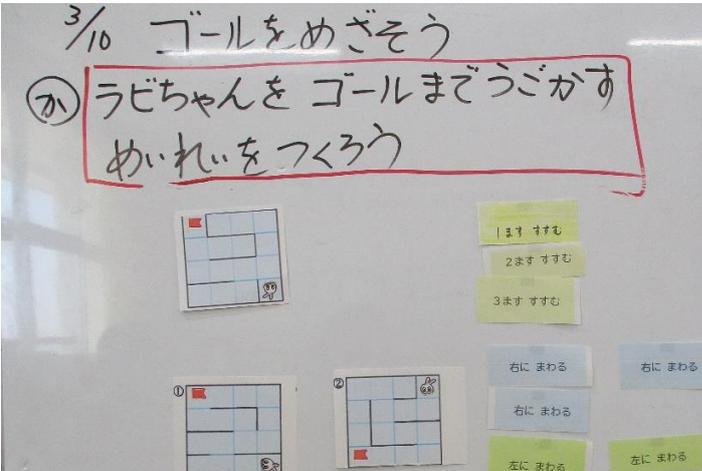
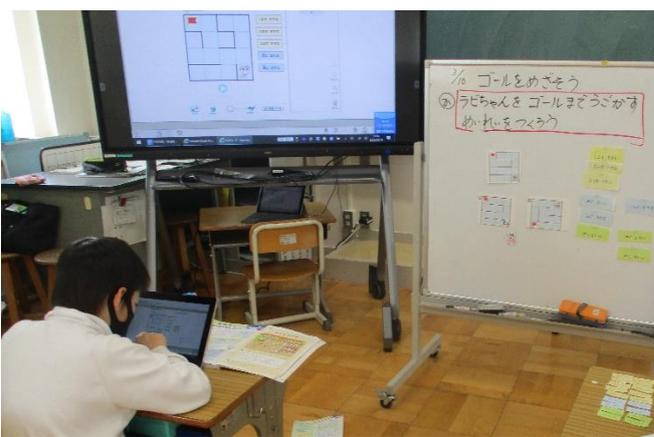
1人1台端末の活用による実践事例

教科名	算 数	学年	5 年
単元名	体積		
ねらい	複合図形の体積を求めるには、複合図形を分けたり、補ったりして直方体を基に考えればよいことに気づき、複合図形の体積の求め方を説明することができる。		
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等	スカイメニュー 自作のアニメーション (パワーポイント)		

展開	主な学習活動	ICT 活用のポイント
つかむ	<p>1. 問題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>右のような立体の体積を求めましょう。</p>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> 大型スクリーンに図を提示し、問題を把握しやすくする。
深める	<p>2. 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>複雑な図形の体積の求め方を考えよう。</p> </div> <p>3. 個人追究をする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="background-color: orange; color: white; padding: 2px;">ヒント：図形を二つに分ける。 別々で体積を求める。</p>  </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 分からない子は、ヒントフォルダを活用する。(デジタルのアニメーション) 図を1人に1人に配付し、直接式や補助線を書き込んで考える。
まとめる	<p>4. ペアで交流し、考えを広げる。</p> <p>5. 全体で交流をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div> <p>6. 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>複雑な図形の体積は、分けたり、補ったりして、直方体や立方体を基にして考えると、公式を使って体積を求めることができる。</p> </div> <p>7. 鉛筆問題に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを示しながら自分の考えをペアに説明する。 鉛筆問題ができた子から、WEBラーニングに取り組む。

1人1台端末の活用による実践事例

教科名	算数	学年	特別支援（1年）
単元名	ゴールをめざそう		
ねらい	目的を達成するために、命令をどのような順序で組み合わせればよいかを考えることができる。また、右や左についての理解を深める。		
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等	タブレット・デジタル教科書		

展開	主な学習活動	ICT 活用のポイント
<p>つかむ</p> <p>取り組む</p> <p>振り返る</p>	<p>1. ラビちゃんの動かし方を知り、課題を把握する。</p>  <p>2. 教科書P168の①の迷路を、命令カードをつなげてゴールさせる。</p> <p>3. タブレットを使って、教科書②の2つの迷路を自分で命令カードをつなげて動かし、ゴールできるか確かめる。</p>  <p>4. ゴールできたら、自分で迷路をつくる。</p> <p>5. 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「〇ますすすむ」「右にまわる」「左にまわる」の 3つのめいれいで ラビちゃんを うごかすことができる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を大型テレビモニターで映し、「1ますすすむ」「右にまわる」「左にまわる」の命令カードを出したときのラビちゃんの動きを見せ、カードの組み合わせでラビちゃんを思ったところに動かせることを理解させる。 ・初めは教科書巻末のカードを使って並べ、ゴールできたか確かめ、みんなで答え合わせする。 ※自分のペースで挑戦できる。 右左があやふやな児童は何度もやり直しになる。進行方向を見て左右を決めるようアドバイスし間違いを見つけさせる ・左右の理解ができる児童は、発展的に迷路作りに挑戦する。 ・タブレット使用により、個々の理解度に合わせ迷路を作るところまでできたり、命令カードの種類を組み直しゴールさせたりと、各々達成感がある。